

# 親子で語ろう 交通ルール

新学期まであとわずか。  
新入学児童をお持ちのご家庭では、期待に胸をふくらませながら、



入学の準備になにかとお忙しいことでしょう。

お子さんの入学にあたって忘れてはならないことの一つに、交通ルールのしつけがあります。

いままでは、比較的家の近くで遊んでいた子供たちも、学校に通うようになると、その行き帰りを初め、新しい友だちもできるなどして、行動範囲はしだいに広がっていきます。

ここで気をつけなければならないのが、交通事故です。

毎年、この時季は、新入学児童の交通事故が目立ちます。入学の前に、正しい交通ルールについて、いま一度親子でよく話し合いましたらよい。

## 「飛び出し」が

### 事故の約七割

子供の事故で一番多いのが、いわゆる「飛び出し」です。警察庁の統計によりますと、昭和五十四年の幼児と小学生の交通事故のうち六十六％、つまり全体の約七割近くが、路地から大通りなどへの「飛び出し」が原因となっています。

## お母さんへ

### 登校前はゆとりをもって

子供のいるご家庭では、ふだんから交通ルールをよく教えるとともに、朝、学校に送り出す時は、次の点に十分気をつけましょう。

◎ 通学時間にゆとりをもたせる子供は、しかられるとそのことで頭がいつぱいになり、周囲の状況が目に入らなくなります。また、時間にゆとりがなかったり、忘れものをして途中から引き返したりすると、非常にあわてるため注意力が散漫になり、事故のもとになりますから注意しましょう。



一方、車を運転される方は、こうした子供の行動特性を十分理解して、子供を見たら「赤信号」と思い、細心の注意を払いましょう。



小学生の「飛び出し」による事故は、一〜三年生が四〜六年生に比べて約四倍にものぼっており、低学年ほど危険が多いことを物語っています。

## 子供の行動特性を知ろう

子供を交通事故から守るには、まず子供の行動特性をよく知るこ

とが大切です。そのいくつかをあげてみますので、この特性をよく知り、交通事故には十分注意しましょう。

▽子供は一つのことには気が向くとまわりのものが目に入らなくなる。ボールが道路にころがり出すと、つい走り出すのもそのためです。▽ものごとを単純にしか理解できない。いつでも、黄色い小旗を上げると車は必ず止まると思いこみがちですが、車は急には止まれません。

▽「あぶないよ」とか「注意なさいよ」という抽象的なことばだけでは、具体的な行動と結びつけて理解することがむずかしい。▽信号無視をしている大人や、年上の子供を見るとすぐまねをしたり、自分で状況を判断しないで大人や年上の子に依存しがちで、人の流れにたよって信号もみないで横断歩道を平気で渡ったりすることが多い。

▽応用動作ができない。たとえば、いつも通る道路では交通ルールを守ることができても、別の道路ではそれができないことが多い。▽物のかけで遊ぶ傾向がある。たとえば、空のタンボールに入った

り、車のそばで遊びたがる。

## 町へ二十万円の寄付

### 平山丈一さん(東)



「生前、母がみなさまにお世話になった感謝の気持ちも含めて、

福祉事業に役立ててください」と北清水の平山丈一さん(東)から町へ、二十万円の寄付がありました。

善意の寄付ありがとうございます。町では、平山さんの意志にそっように、福祉事業のために使わせていただく計画です。